

## [第684回 ラジオ大阪番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和8年2月18日(水) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 ラジオ大阪 大会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 5名

出席の総数 5名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎  
鎌田 雅子 鳴海 勝  
岸本 佳子(書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

上野 慶子 志知 直哉

4. 議題

1) 番組審議 『明日に寄り添う～訪問介護の現在と未来～』

2) その他

5. 議事の概要

議題1) 『明日に寄り添う～訪問介護の現在と未来～』について、番組の企画意図と内容を説明し、審議に入った。

社側 障がいのある人やサポートが必要な高齢者にとって欠かせない訪問介護。超高齢社会を迎える中で益々需要が増えることが予想されますが、にもかかわらず現場では様々な問題が発生しています。少子高齢化による深刻な人手不足、ヘルパーの高齢化、低賃金、さらに2024年の基本介護報酬の引き下げ。それらによって倒産する事業所が増え、2024年度上半期の倒産は過去最多を記録しています。誰もがいつお世話になることになるか分からない状況の中で、持続可能な制度として維持・発展させるために、いま何が出来るの

か、今後なにが必要なのか。現状の課題と将来への提言、さらに「キツイ・汚い・危険の3K」のイメージが強い介護の仕事に関して、魅力的な職業として発信する取り組みなども紹介していきます。訪問介護制度を利用している全盲で車いすのミュージシャン・山下純一と、2024年に「重度訪問介護従業者」資格を取得して訪問介護ヘルパーの仕事もしているお笑いコンビ・アルミカンのマッちょ赤坂が、当事者の視点で訪問介護制度の現状を学び、未来を探ります。制度の解説は、障害者福祉がご専門の関西福祉科学大学 社会福祉学部 福祉創造学科 教授 柿木志津江さん。訪問介護サービスを提供している当事者として、特別養護老人ホーム・ヴェルディ八戸ノ里の統括施設長で、介護福祉士として勤めいらっしゃる植北康嗣さんと、障がい者の方への訪問介護と自立生活センターを運営されNPO法人ムーブメントを立ち上げて活動されている伊勢篤史さんと、松原武司さんに、現状の課題や、それに対する取り組み、今後の展望などもお話を頂きました。さらに、介護ヘルパーの重要性や楽しさを知って頂くため、タレント活動から訪問介護の世界に飛び込んで、介護福祉士の資格も取得し、いまもリハビリデイサービスで働きながら、介護の情報や魅力を発信する介護タレントとして活動している西田美歩さんにもお話を伺いました。今回ご審議いただく内容は2025年5月30日に放送した単発番組です。よろしくお願ひ申し上げます。

委員 全盲で車いす利用者であり、訪問介護制度を実際に利用しているミュージシャンの山下純一さんと、ヘルパーとしても働く、お笑いタレントのアルミカン・マッちょ赤坂さんの2人を中心に、難しい問題を、当事者目線をもつ2人を通して、身近に考えさせてくれる、上質な番組であった。最後に、赤坂さんや山下さんが、この制度を守らないといけない、いまは健康で五体満足な人も、想像を巡らせて介護を必要とする人がいること、それを支えている人がいるのだ、ということを考えてみてほしい、と訴えていた。当事者目線の2人が進行を務めることによって、聴取者が関心をもちやすい構成となったことがこの番組にとって大きな成功の要因である。

委員 訪問介護の問題点をリスナーに訴えていくという内容としては素晴らしい。出演者もラジオ大阪ではお馴染みの山下純一さん、アルミカンの赤坂さんである。訪問介護を受ける側と提供する側というベストな組み合わせでそこはよかったが、前半の専門家が話している場面では、専門用語やデータが矢継ぎ早に語られ、急にお勉強タイムのようになってしまった。難しい話やあまり関心を持たれない話題をいかに多くの方に伝えるか、それがラジオ局の使命である。

委員 訪問介護の現場の話として、制度的な部分について危機感があるというのがよく伝わってきた。このままでは、訪問看護はなくなってしまい、自宅で

過ごすことができなくなり、施設に入るという選択しかなくなってしまうかもしれないという。人間らしく、その人らしく暮らせる自宅で介護できるということは、とても大事なことであり、社会的な問題であると感じた。

委員 この番組は訪問介護が危機的な状況であることを伝えている。介護の仕事は簡単ではなく、経験とスキルが必要で、寄り添う姿勢が求められる。人手不足も深刻で人材の高齢化も進み、今後介護がどうなるか不安になるが、希望もないわけではなく、学生時代に介護にふれる経験があれば、その大切さが理解できるし、仕事も入りやすくなる。ただ、あまりにも世間は介護のことを知らなさすぎる。案外気づかれていないのは、ヘルパーの事務作業が大変なこと、というのは私自身が障害者になって分かったことである。

委員 山下さんと赤坂さんの進行によって、重いテーマがよくわかるようになってきている。前半のお先真っ暗な話から、途中から前向きな話になってくると希望や明るさが出てきて、そこがラジオ的に非常に良かった。西田さんは、介護タレントと自称するだけあって、詳しいことをはっきり言いきれるところや、気さくに明るく話しても、訪問介護のことはみなさんに知って欲しい、としっかり切実に話している。欲をいえばラジオ的にもう少しやわらかく楽しい番組にしたほうがもっとよくなるのではないかな。

社側 貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

6. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・ 「番組審議会だより」 （第684回ラジオ大阪番組審議会議事録の要約）  
「ラジオ大阪番組審議会レポート」 内で放送  
放送日 令和8年3月22日（日）6時10分～6時15分
- ・ 「番組審議会だより」 （第684回ラジオ大阪番組審議会議事録）  
ラジオ大阪ホームページ（<http://www.obc1314.co.jp>）に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。

8. その他の参考事項

訂正放送または取り消しの放送の請求及び請求に対しての措置が無い旨を報告。

以上